

議長定例記者会見 会見録

日時：平成26年2月4日10時30分～

場所：全員協議会室

1 冒頭の発言事項

○みえ現場 de 県議会「観光産業の振興」の開催について

2 質疑項目

○みえ現場 de 県議会「観光産業の振興」の開催について

○海女文化の世界遺産登録について

○平成26年度当初予算について

○議員定数及び選挙区の見直しの間接案に対するパブリックコメントについて

○三重県総合博物館（MieMu）について

○東京都知事選挙について

○議員定数及び選挙区の見直しの間接案に対するパブリックコメントについて

1 冒頭の発言事項

○みえ現場 de 県議会「観光産業の振興」の開催について

（議長）おはようございます。ただ今から、2月の議長定例記者会見を開催させていただきます。

先月の議長定例記者会見におきまして、すでに発表しておりますので、発表事項というわけではございませんが、お手元に配付の資料のとおり、今月、2月7日の金曜日、午後2時から、伊賀市にありますハイトピア伊賀におきまして、「観光産業の振興」をテーマに、「みえ現場 de 県議会」を開催することについて、改めてお知らせをします。

当日は、伊賀地域で観光産業に関わる方など11名にご参加をいただき、県議会議員13名と意見交換を行う予定です。

また、20人まではどなたでも自由に会議を傍聴できますので、ぜひ多くの方々に来ていただければと思っております。

報道機関の皆様におかれましては、事前の情報発信や当日の取材につきまして、ご協力をお願いいたします。

私からの冒頭の発言は、以上でございます。

2 質疑応答

ー第二県政記者クラブの方を含めてお願いします。ー

○みえ現場 de 県議会「観光産業の振興」の開催について

(質問) 今の発表項目なんですけど、特に議会が観光産業の振興というのに目を向けられているという背景は何なんですか。

(副議長) 広聴広報会議の中でテーマ選定を議論させていただきました。その中で、ちょうど昨年というか、今年度が式年遷宮でございましたし、来年度が熊野古道の世界遺産登録10周年という部分の中で、観光振興という部分にかなり力を入れながら、三重県としても情報発信を続けてきておるところであります。議会としても当然注力しながら、執行部の取り組みに対して特別委員会も設置し、連携も含めながら調査もさせてきていただいているところでありまして、またそういった中で県民の方々の、有識者の方でございますが、声を聴かせていただいて、式年遷宮のフォローも含めながら、次年度の取り組み等々に生かしていければという部分の中で、今回、観光産業の振興というテーマに設定をさせていただきながら、開催をさせていただくという運びになりました。

○海女文化の世界遺産登録について

(質問) 発表の関連というか、今のお話でいくと、この前の鳥羽でやった東海北陸の会議で、三重県側から3議案を出したじゃないですか。あの中で昇龍道は既に進んでいるわけなんですけど、その中で例えば海女文化の世界遺産登録であるとか、そういう観光的な案件というのはなかったように思うんですけど、その辺は特に引っかけする必要はないんですか。

(副議長) 東海北陸7県議会議長会議のお話だと思います。その中で県議会として、過去の意見書等々を含めながら、国に対してあげてきたものの中で整理もさせていただいてきておりますし、以前、和歌山、奈良との紀伊半島三県議会交流会議の中では当然、熊野古道の世界遺産登録の10周年に向けて連携をして取り組んでいこうという形の中で、三県議会交流会議の中では確認をさせていただいているところでもありますので、東海北陸7県議会議長会議の中では、あえてそこまでは議題としてあげさせていただいてなかったという状況であります。

(質問) ただし、北陸の中には石川県も入っていてですね、ご承知のように、知事部局では石川の海女との交流とか、いろいろ動かれているじゃないですか。本来的ならそのところを勘案して、あがってもしかるべきかと思うんですけど、それは今後ということによろしいんですかね。

(副議長) 海女の取り組みのことだと思うんですが、そういった部分も含めながら、当然連携をし、情報発信もしていかなければいけないと思いますので、議会として情報発信を含めながらの取り組みですよ、戦略的な部分も必要かと思しますので、今後も検討させていただければと思います。

(質問) その関係からいくと、さっきの海女文化の世界遺産登録って、知事部局の方はそれなりにやられてるんですけど、議会としては何らかの支援体制というのは。議長いかがですか。

(議長) 今お話がございましたように、三重県の海女につきましては、全国的にも貴重な民俗文化財ということで認知をされておりまして、国内の約半数の海女がおり、県内には約1,000人の海女がおみえになるということがございますけれども、海女文化の発信地ということで考えさせていただいております。1月23日に全国で初めて県の無形民俗文化財に指定をされまして、今後、国の文化財指定、国連教育科学文化機関(ユネスコ)無形文化遺産への登録に向けた取り組みも進めておるということでもございまして、1月24日には、海女文化を保存・振興し次世代につなげていくことを目的に、海女のいる8県、三重県、岩手県、宮城県、静岡県、石川県、福井県、徳島県、鳥取県が参加をして、「全国海女文化保存・振興会議」が設立されました。今後、8県が協力してユネスコ無形文化遺産への登録、海女文化の保存・伝承、漁業振興、広域観光などの取り組みが行われていくと、このように推測をするわけですが、県議会といたしましても、海女文化の保存と振興については、所管が教育警察常任委員会でございますので、今後は教育警察常任委員会の中でいろいろご議論をさせていただいて、どういう方向に進んでいくかは分かりませんが、ユネスコ無形文化遺産登録に向けての努力はさせていただきたいと思っておりますので、見守っていただきますようによろしく願いいたします。

(質問) ということは、議会としても推進の立場で、特にこれについて反対であるとか、そういうことはないわけですね。

(議長) はい。

(質問) 海女文化に関しては、韓国は自分のところが済州島を中心に本家本元だという話もあるんですけど、県議会は今、韓国の議員たちとの交流的な組織はありましたっけ。

(議長) 日韓の議員連盟はあるんですけども、具体的にまだそんなところで話題にはなっておりません。先般お話しさせていただきましたように、議員連盟も休眠状態というところもございますので、この間、部会長さんの方に、休眠状態のような運営のところから、会議を開いていただくとか、行事なり、活動方針等も出していただくような形の中でやっていただきたいとお願いさせていただいて、部分的にはそういう活動に着手していただくところもございますが、前田副議長は日韓の関係で会長をやっていただいておりますので、具体的に海女の件も今お聞きさせていただきましたので、議題にさせていただけるような形にもって行っていただきたいなと思います。

(質問) 国同士というか執行部同士は、日本はそうでもないけど、向こうの韓国政府が今冷戦状態なんで、県議会がやられている日韓の議員関係というのは、比較的交流はまだ続いているんですか。連絡をとりあったりとか。

(副議長) 現状の中で、以前については、いろいろ交流しながら相互的に交流もさせていただいていたんですが、今、議会としてという形ではなく、労働団体の方が一部交流を深めてみえるところもありますので、そういった部分の中で協力はさせていただいているという程度でありまして、先ほど議長からお話いただいたように、少し休眠中でございましたので、再稼働に向けて、今、ご指摘いただいたことも含めながら、いろんな意味で試行錯誤しながら交流を深められればと思っております。

(質問) 労働団体というのは、電機労連とかそういうやつですか。

(副議長) 連合三重の方が、少し地名は忘れましたが、交流を深めていただいております。

(質問) 電機労連じゃなくて。

(副議長) いや、連合三重の方で。

(質問) 特に電機労連に特化してということではないですね。

(副議長) ではないですね。

(質問) 原発がらみの交流、技術的なものとかいうんでっていうのはないですね。

(副議長) ではないです。ずっと過去からやられてみえる交流ですよ。

○平成26年度当初予算について

(質問) 平成26年度の当初予算というのが、大枠は議会の方にも示されているとは思いますが、方針を含めてですね。第一印象というか、率直にどんな感想をお持ちですか。

(議長) 26年度予算、6900億円ぐらいの予算、昨日、代表者会議のところで、いろいろご説明をいただき、示されてきましたですけども、私の思いと言うんですかね、考えとしては、この25年度までは知事、3年担当されておみえになって、例えば前知事から引き継いだ新博物館も4月19日に開館ということになりますし、それとあと、今までの柱では、遷宮の関係で、いろいろ事業も道路整備とかいろいろ進められてきましたけども、これも昨年10月に遷宮も終了いたしましたので、これからやっぱり、今回の予算ということでいきますと、平成26年度は、知事が一期担当されて、そういう面での集大成と言うんですかね、それと併せて次期に向けての考え方というのを出された、こんな予算かなと、こういう思いをさせていただいております。財政状況は厳しい状況でございますけれども、いろいろメリハリをつけたり、いろいろしながらということでやられておると、そんな受け止め方をさせていただいております。

(質問) 厳しい財政状況で、今の知事になられてから議会の方も政務調査費を削減して震災の方に回されたりとかしたことがあるんですけども、この厳しい財政状況で、議会で例えば報酬を下げて協力するとか、そういう風な話はあるんですか。それともそれは議論にも上らない。

(議長) 今言われたことにつきましては、各代表者の皆さん方には今後、特に公務員の関係では元へ戻るといって、こういうところに来ておりますので、議会の方はこれからどうしていくかということについては、これから少し短期間に論議をしていきたいなと思います。

(質問) 確定したわけじゃないですけど、今、パブリックコメントを実施している状態で、次の27年県議選というのが、現状のまま定数も選挙区割も変えないままいくという話になってくると、そこの部分で何らかの理由付けとかいうのがですね、要は4年や5年くらいでは選挙区割を変えたときに、非常に浸透しにくいとか、そういう議論というのが県民が納得しにくい部分あると思うんですけど、その辺を予算上で、例えば、報酬関係である程度けじめをつける

とか、そういうのではないわけですね。

(議長) それも含めて、特に今1割ほど減をしておりますので、そんなところも3月末という、こういうところもございますので、そんなところも含めて、そしてまた、今言われましたように、議員の定数はそのままでのこのこのという話もございましたが、それも含めておそらくこの短期間に、3月末くらいまでには結論を出していかないかと、そのように思っております。

○議員定数及び選挙区の見直しの中間案に対するパブリックコメントについて

(質問) 「たれば」の話なんですけど、仮にパブリックコメントをとってですね、27年県議選は現行のままいって31年に変えるという、あの案について反対意見等が多い場合というのは、それなりにもう一度差し戻して考えるとかいう余地はあるんですか。

(議長) 今のところは、選挙区調査特別委員会のところで審議していただいておりますので、意見というのはある面で尊重されると、パブリックコメントの結果については尊重されると、このように思っておりますけども、いずれにいたしましても、正副議長のところから選挙区調査特別委員会のところに委ねさせていただいておりますので、その結果を今後待ちたいなと、こうやって思っています。

(質問) ということは、パブリックコメントが、仮に現行のままいくということについて厳しいご意見が出た場合は、その判断というのは特別委員会の中でもう一回ご審議し、判断されるだろうということでしょうか。

(議長) 今、パブリックコメントをやらせていただいておりますので、先月14日から実施をさせていただいて、今月の13日に締めさせていただきますけれども、現在95件ほどの意見が県議会の方に寄せられております。意見の詳しい内容につきましては、後日開催されます、私が今言いました委員会のところで説明があると思っておりますけれども、主な意見といたしましては、見直し内容については直ちに適応すべきとか、地域性等をもっと考慮すべきとか、いろいろ意見がございます。ですから、そんな意見は今、委員会の方でこれからまとめていただくことになろうかと思っておりますので、そんな意見のところを委員会の方としては参考にされて、最終案作成に向けての委員会の議論がされていくんじゃないかなと、このように思います。

(質問) 95件というのはいつ現在ですか。

(議長) 昨日現在で95件。

(質問) 2月3日現在ですね。

(議長) はい。

(質問) 中には県議OBでかなり手厳しいご意見を書かれた方もいるみたいですが、それはご覧というか、お読みになりましたか。

(議長) パブリックコメントの書かれた文面については私はまだ見ておりません。

○三重県総合博物館 (MieMu) について

(質問) さっき、ちらっと出ました4月19日開館の新博物館なんですけど、経営向上懇話会でしたか、あそこでも再三立ち遅れというのが指摘されているんですが、議会としても、もともと建設計画の承認の議決の責任はあると思うんで、その辺で何かお考えがあればお聞かせいただけますか。

(議長) 先ほど言いましたように本年の4月19日に開館の予定の三重県総合博物館でございますけど、これにつきましては、三重県の自然と歴史と文化に、そしてまた、学び、交流する場として大きな役割を果たしていただく、こういう施設だと、このように思っております。県当局から開館準備が遅れておるといふ説明はございませんけども、1月22日に開催されました、先ほどお話がございました、三重県総合博物館経営向上懇話会では、開館に向けた広報としてオープン1ヶ月前の取り組みが一番大事であるという意見とか、招待券を配るなど直接行ってみようと思わせるような取り組みが必要でないとか、それから、接客訓練も本当に大切なことだとか、いろいろご意見があったようでございまして、新聞等でも報道されておるわけでございますが、私どもとしても、知事がこの懇話会の中で担当者に質問された中に、開館まで大丈夫なんかと、こういうお話もございまして、答弁する人は大丈夫と、こういうお話もございましたもので、今後の推移を見守っていきたいなと思っております。3月19日実施の開館1ヶ月前キャンペーン、これについて最近重きを置いていろいろお話を聞くわけでございますけども、開館に向けて、1ヶ月前のキャンペーンも含めて残されたこの期間について十分県民の皆様方にPRをし、そして万全の体制の中でオープンを迎えていただきたい。私ども議会としてもいろいろな形の中で、少しでも開館に向けての万全の協力ということでは、こんなバッジも

付けさせていただきましたし、それから名刺もいろいろ活用させていただきましたし、私議長としても1ヶ月前にいろいろ行事があるということならば少しでも協力をさせていただくと、こんな気持ちでおりますので開館の立ち遅れにつきましては若干認める部分はあるかと思えますけども、残された期間の中で十分準備万端、頑張っていたいただきたいなど、こうやって思っています。

(質問) お二人にお尋ねしますが、まず議長からですが、博物館はもうご覧になったんですか。中身を、中を。

(議長) まだ見ていません。

(質問) 副議長はいかがですか。

(副議長) 工事中の免震構造を含めながら、そういうものは見せていただいたんですが、まだ展示物等含めながらは見せていただけていないです。

(質問) 建物自身が出来てからはまだご覧になっていないですか。

(副議長) 工事中ですね。完成後は見ていないです。

(質問) 個人の見解っていうのは非常に差があると思うんですけど、私なんかは議会で審議されてた、例えば公文書館の部分であるとか、そこで了承した部分と現実に今出来上がっているもののが、かなり違和感がある気がするんですね。展示物等も初期にはミエゾウはメイン展示物にならないという議会での当局側の答弁だったと思うんですけど、それが結局目玉がないままミエゾウをメインにしているという形に様変わりしてきている部分があったりして、その辺でご意見を伺いたかったんですけど、まだご覧になってないということ。

(議長) さっそく見させていただきます。やっぱり現状に即した工事の進捗状況ですね、即した答弁になっとるか、なってないかと思えますと、ちょっと心配になってまいりましたので、さっそく1回見させていただきます。

(質問) 工事そのものはあれだけの大手ゼネコンですから心配ないと思うんですけど、問題は展示内容等で、議会でかなりご議論あって、結局やるやらないというところまでいったわけですから、特に経営の問題で附帯意見付きで今の知事になられて、再度見直されてゴーサインを出されたという。そのところをある程度見守っていく議会側の責任もおありだと思うので。

(議長) 7項目の件もございますし、中の展示の関係等も、今ご指摘いただきましたものですから、さっそく実際目で見させていただきたいと思います。

○東京都知事選挙について

(質問) 2月9日に都知事選の投開票ですが、今の候補者で名前が知られているというか、結構古い名前が出ておられる方がいますが、率直なご感想をお願いします。

(議長) 率直な感想と言いますと、東京都知事選でございますので、あまり三重県の議長としてはコメントを差し控えさせていただきたいなと思っておりますけれども、どちらにいたしましても、16名の方が立候補されておみえになりますし、これからの東京都の顔でございますし、それからまたオリンピックを迎えるそういう都でございますので、私としても十分見守っていききたいと思っております。今の争点の中には、特に東京オリンピック・パラリンピック開催の問題とか、首都直下型の大きな地震が想定されるような防災、災害対策の問題とか、エネルギーでは原発等の問題もありますし、福祉の問題とか社会保障等の問題も今、論点であがってきておりますけれども、いずれにいたしましても、東京都民の皆様方が自分たちの街の長を決めるわけでございますので、その辺のところは色々施策を聞いてご判断されるのではないかなと思っておりますので、国を左右するというようなお話も出ておりますけれども、私どもとしてはこの知事選というのを見守っていききたいと、このように思っております。

(質問) 率直なご感想なんですけれども、全般に候補者の年齢が高いじゃないですか。例えば76歳とかおります。若い人でも60代とか。2期8年で首長の場合とか、国会議員の引退説とかありますけど、あの年齢の高い候補者全体に何かご感想はありますか

(議長) 特に76歳候補者もお見えになって、これで7年先のオリンピックを取り仕切っていただけるのか、また、そういう展望で描けるのかといいますと、なかなか少し違和感というものを感じることもあろうかと思っておりますけれども、これは東京都民の皆様方が選ばれることですので、私は歳が若いとか、歳がいつているということでコメントというのは申し上げにくいなと思っておりますので、あとは東京都民の皆さん方の賢明な審判で選ばれるのではないかなとこのように思います。

○議員定数及び選挙区の見直しの中間案に対するパブリックコメントについて

(質問) 先ほどパブリックコメントが95件という数字があったかと思いますが、もし把握していればなんですけども、賛成意見が何パーセントとか、反対意見が何パーセントとか、そういうのは把握されていたりするのですか。

(議長) 私はそこまで把握をしておりません。また、ちょっと今お話しするとこれもなかなかあれですから。まあ95件あるということで、その意見のところには、見直し内容については直ちに適用すべきとか、地域性をもっと考慮すべきとか、そのような意見があるということだけは言わせていただきます。

(質問) 直ちに適用というのは、27年から31年の制度改革を実施したらという意味ですね。

(議長) 27年以降というより、27年度から適用をと、こういうことですね。

(以 上) 11時03分 終了